発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市入船町1番地
電話(53)3033～4
編集兼発行人 杉本一男
半年間 1,800円 送料共
振替口座番号
労働金庫大牟田支店
0968946－005

うごき

6月15日 第十六回委員会
16日 十一・九和解交渉
23日 第十七回委員会
24日 四山鉱安全会議
24日 港務所安全会議
25日 三川鉱安全会議
27日 本所安全会議
28日 保安委員会
28日 有明鉱安全会議
7月2日 執行部入坑点検
3日 執行部入坑点検

政策闘争

下旬に中央行動展開

あくまで現有炭鉱の維持・存続を

大きなヤマ場を迎える第八次石炭政策をめぐって、七月下旬にフレームワーク(答申大綱)の決定、八月下旬に本答申が予定されていますが、衆参同日選挙後の通産大臣決定以後急速に答申案提示の動きがすすむものと予想されます。二十三日からの炭労一一〇回定期大会終了後、「あくまで現有炭鉱の維持・存続」を求めて中央集会をはじめ諸行動を展開します。

中央の動き

石炭各社、「生きられる対策」強調

炭労中央本部は、かねてから各支部を通じて、各社・各山の第八次政策への対応と当面のローリング計画の提示を求めてきましたが、その報告によると、六十三年度の五社集計(松島を除く)では、現在の出産量より六十万トン程度の減産となるものの、すべてのヤマが存続する計画となっています。

しかし、第八次政策の分析、影響、対応などについては、「本社段階」として山元での表明を避けたために、在京中執の責任で六月五日(三菱社)、六日(三井社、太平洋社)、九日(住友社、北炭社)との折衝をおこないました。

このなかで各社は、若干の表現の差はあってもいずれの社も、①鉄鋼からの原料炭大幅値下げの強行、電力の一般炭への連動――が大問題。②検討小委員会報告(五月八日)の方向では、若干の時間差はあってもどこのヤマも生きてはいけない。③あくまで需要、炭価、助成を柱とする要請を続けていく。④したがって「閉山」表明をする気もないし、五月二十二日と二十九日の検討小委とのヒアリングでは、そんな言質は一言も与えていない。マスコミの想定記事は迷惑千万――だと表明しました。

横暴な鉄鋼の動き止めよ

炭労本部は六月十一日、鉄鋼問題で通産省への抗議行動をおこないました。

これは、鉄鋼各社が石炭各社に対し、①輸入炭と同水準への価格引き下げ。②それを前提とした六月以降の引き取り代金の支払い。を通告していることについて、政府・通産省に、①少なくとも第七次政策下の六十一年度に、このような横暴は許されない。②第七次政策の施行に責任を持っている政府・通産省として鉄鋼の動きを止めよ――などを求めたものです。

これに対し通産省(石炭部)は、①六十一年度の需給部会が開かれていないし、基準炭価も決まっていないので、各業界の動きは自由になっており、止めることはできない。②今までは前年度価格で経過措置をおこない、決定後に遡及していたが、これは慣行であって決まっているものではない。③いずれ需要部会、基準炭価決定の時に論議になるが、実質的には第八次政策答申内容と同時決着にならざるを得ない――などとして、消極的な姿勢を示しました。

石特委の決議

第八次石炭政策をめぐる情勢がきびしいなかで、さきの第一〇四国会の衆議院石炭対策特別委員会では超党派による決議(別項)が採択され、当時の渡辺通産大臣は、「決議の趣旨にそって石炭対策に全力を尽くす」と、決意を表明しています。

また、大牟田・荒尾でもそれぞれ意見書を採択、中央行動に合わせて陳情団が上京します。

政策闘争へ全力

1986年度行動方針 第110回炭労大会議案 大衆討議へ

6月23日の委員会で、1986年度の行動方針、予・決算、さらに炭労大会対策案が提案され、7月18日集約されるが、真剣な大衆討議が求められている。

第八次石炭政策に関する件

石炭鉱業審議会政策部会検討小委員会において検討されている第八次石炭政策に関し、最近その主要点が明らかにされたが、石炭政策は中長期視点に立ち、かつ、国内資源の有効活用を重視して策定されるべきであり、このため政府は、とくに次の諸点について適切な措置を講ずべきである。

一、国内石炭資源の合理的な活用をはかるため、有効妥当な施策を確立すること。

二、国民的合意を得られる内外炭の価格差負担のあり方を検討するとともに、国内炭の需要確保に努めること。

三、自然条件に恵まれない国内炭鉱の保安を確保するため、鉱山保安確保事業に対する助成措置の拡充強化を図ること。

四、産炭地域経済社会の活性化を促進するため、鉱害復旧事業、産炭地域振興対策事業の効率的推進に努めること。

五、特別会計制度による石炭対策財源の確保を図ること。

右決議する。

四山鉱で人車事故

六月十九日午前八時二十分ごろ四山鉱五百二十メートル坑道西三十五卸の三百メートル附近で、天井から落ちた矢板に人車が乗り上げ、先頭車から三輌が脱線、この事故で数人の負傷者が出ました。

組合では、この事故について、①天井の総点検を実施し、不安全箇所の補修をおこなうこと。②日常の天井点検を実施すること。③人車線には、天井からの落石防止のため金網を張ること。などを要求し改善を求めました。その後類似箇所の総点検が実施され、当該箇所では金網が張られました。

全国鉱山保安週間 七月一日～七月七日

港務所一時金が妥結

三池港務所の上期期末手当闘争は、要求額五十五万円で六月十七日に要求書を提出、十八日、二十一日に交渉がおこなわれました。

会社は、六十年度の経常利益は十六億円で前年度並みを確保したが、有価証券の売却による金利減があり、六十一年度の見通しは石炭需要の低迷などできびしいとして、前期マイナス四千円を主張しました。

組合は、具体的に反論し前期妥結額への上積みを主張しましたが会社はゆずらず、平行線のまま決裂し、十九日抗議の時限ストライキに突入しました。

回答内容

一、社員一人当たり平均 四六三、〇〇〇円

二、配分

基礎額 三七九、六七二円(82%)

成績給 八三、三三七円(18%)

長期病欠者見舞金 一八五、二〇〇円

特別社員 展開結果の80%

支給日 七月十日

衆参同時選最終盤へ

中曽根自民党悪政に〝断〟の活動を
(同時選関連記事は2面に)

地底

▼…沖縄では梅雨が明けたが、降雨量は例年の半分だったとか。こちらは雨また雨。もう梅雨も末期だが集中豪雨には要注意。梅雨が明ければ不快指数がうなぎのぼりのむし暑い日が続くが同日選でカラッといきたいもの。

▼…過去の解散には、「抜き打ち解散」(吉田内閣)、「バカヤロー解散」(吉田内閣)、「天の声解散」(鳩山内閣)、「黒い霧解散」(佐藤内閣)、「日中解散」(田中内閣)、「ハプニング解散」(大平内閣)などがあったが、今回は「ごり押し解散」、「私欲解散」、「ファッショ解散」と事欠かぬが、さてどれにするか。

▼…「寝たふり」「死んだふり」が流行語になりそう。もともと演技過剰の宰相が、相手の動きを見てとるためのものであり、「風身鶏」風の処身術であろうが、何べんも同じことを繰り返すと、「やっぱりウソだった」となる。ウソをつくことに良心の苛責もなく、「それが政治だ」と言うのなら、もうどうしようもない。

▼…「日本の将来を左右する」「憲法改正する」といわれるのに、税金をガッポリ取られ、年金、医療を切り下げられている「善良な庶民」が票を入れる。「ダブル選挙なら勝つ」というあたり、えらくなめられたものである。巨人ファンと自民党支持が保守的多数派を形成するお国柄だが、ほとんどビョーキなのかもしれぬ。

▼…鉄鋼などが石炭を「引き取らぬ」「まけろ」という。果ては「つぶせ」とVNる。それを「自由」だという政府。いったい〝需給見通し〟を作ったのはいつだったか、だれだったか、よもや忘れはしまいに。政策が破綻したら責任をとるのは当たり前の話。やっぱり責任をとらせる側の方に問題ありか――ああ。